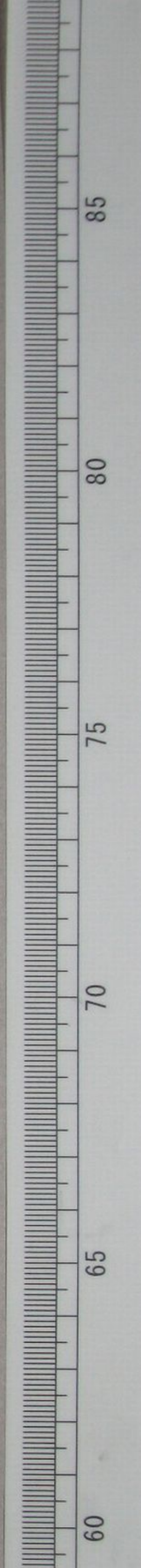


和蘭風說書一

西垣文庫
文庫10
7267
1



一

西垣文庫
文庫 10
7267
1

和蘭風詠書
第六冊

特文庫
7267
1

世
中
書
卷
之
一
第
一
冊

家藏

圖書

荷蘭上告文五卷附錄一卷係鷹見泉石
請長崎象番所就日記中令抄寫者泉石古
河藩人壯歲好洋學適土井侯任閣老
而身贊公事故得有此舉泉石晚年以
地學與余交厚頃者出其深秘寄示于
余乃寫一通藏家云抑和蘭之通於我
二百餘年其國雖眇小殊長航海貿易尤
廣今親覽其所上告亞細亞諸部動靜勿
論及余所未知乃其西洋地方風聲之甚

西瀛文庫

卷一

有典西史相發者今以泉石之賜得考
證其事體且得詳彼之交易五細五諸
部之昔盛而今衰之狀則此書亦詳審
洋情之一部歷史也按閱一過乃題其首
嘉永四年辛亥仲春色若病人儒
書子樂只在中南窓下時天雲鮮皎霽
光映帟分血櫻書弄弄幽趣不可言也

寛文六年

倭西巴出書為形阿蒙院口書

一南蛮人居中ノク千ニシテ國と先年阿蒙院取置メ在ル
處此國ノ内ホルカト在斯ク千ニシテ五六里程此國
外ニシテ此國ノ為高貴船と乘遊々集ルヨリ其方
又ホルカトク千ニ内ニ有リ其方何トク其内ナ
高貴ノ集ルヨリ或船内中ノ得自使と立ルヨリ得志
其方ヨリ由ルヨリ得自類ノ追帰ニ中ニ其後阿蒙院中國
外ニシテ此國ノ使者船と以テ越シ其方今度ホルカト高
貴ノ集ルヨリ其方ク千ニ在ル中ノ阿蒙院共追出ル南蛮不

仕舞の中ハカ表裏ハカ代り相大分積集し中ハカ處迄
返し中ハカ代相去り中ハカ損壞大分し事ハカ
多分毎ハカ中ハカ越ゆ所ハカ法身ハカ中ハカ其使者
船ハカ道返し中ハカ之飯ハカ舟ハカと阿茶院中
西海在成中ハカ

一去年五月初此ハカ為ハカ阿茶院本國ハカ軍ハカ船ハカ百ハカ之ハカ船ハカ
多軍仕ハカ中ハカ阿茶院國ハカ兵ハカ船ハカ百ハカ之ハカ船ハカ
出合戦中ハカ初日ハカ軍ハカ人ハカ痛ハカ其ハカ上ハカ日ハカ暮
相引ハカ仕ハカ二ハカ日ハカ阿茶院ハカ船ハカ大ハカ將ハカ相ハカりハカ中ハカ船ハカ之ハカ船ハカ
是ハカ方ハカより付ハカ中ハカ在ハカ矢ハカ玉ハカと茶ハカ室ハカ付ハカ込ハカ中ハカ

舟茶ハカ火ハカ入ハカ大ハカ將ハカ相ハカ人ハカ共ハカ焼ハカ失ハカ仕ハカ友ハカ日ハカ戦ハカ中ハカ舟ハカ共ハカ備ハカ負
付ハカ中ハカ相引ハカ仕ハカ其ハカ後ハカ兵ハカ船ハカ共ハカ双ハカ方ハカ相ハカりハカ浮ハカ互ハカ船
共取合中ハカ

一去年五月十五日阿茶院船ハカ三艘連ハカ也ハカ之ハカ便ハカ吸ハカ吧ハカと
出船仕阿茶院本國ハカ船ハカ中ハカ其ハカ内ハカ之ハカ艘ハカ志ハカ以ハカ傷ハカ不ハカ知
見ハカ不ハカ中ハカ殘ハカ拾ハカ武ハカ艘ハカ志ハカ阿茶院本國ハカ船ハカ百ハカ之ハカ船ハカ程ハカ相
之ハカ系ハカりハカ船ハカ中ハカ阿茶院國ハカ船ハカ小ハカ船ハカ武ハカ艘ハカ方ハカ阿茶院
國ハカ船ハカ中ハカ船ハカ共ハカ軍ハカ之ハカ振ハカ子ハカ為ハカ知ハカ中ハカ出ハカ並ハカ少ハカ船ハカ之ハカ邊
中ハカ舟ハカ阿茶院本國ハカ船ハカ系ハカりハカ入ハカ中ハカノハカコハカイハカキハカ与ハカ中ハカ所
阿茶院國ハカ船ハカ百ハカ之ハカ船ハカ程ハカ相ハカりハカ入ハカ阿茶院本國ハカ船ハカ之ハカ邊ハカ

少船を撃つに事ありしに得る兵船五拾五艘之船大将多人数に追て撃つに兵船は遠阿茶院國可兼占仕り受て阿茶院國近くと俄大風吹皆方りく吹たりにて阿茶院國に捨船し向に艘一所吹流寄中の月類船を何方に存しり余り受てり予の船に帆陰見り月類船を存余り近中の海を航船すと事出坐をけり此に事船取艘居中の所を擲中の所處をけり此に事船共取廻り火矢討りけり此の方を討令中に海共をけり此に事船艘多し此に故不相叶事艘去印時討沉ら此に

残或艘を撃つに戦りしに兵船中人數僅に討存し是武艘共をけり此に方、是處中に此に艘船を擲り此に事船去をけり此に國と阿茶院國と去程近くと事出に事出、此に

一 唖吧出に殘九艘し松阿茶院國分中、五拾五艘之兵船共八船と事出、阿茶院國、若仕り唖吧出に中、此に

一 尚年三月十日、阿茶院國高賣船を擲り此に事出、唖吧出に擲り蠟燭し火を火事出に燧矢仕人等大に打果中に其外打替た此に事出、此に

榮院共中々重方入津と船相替故我海陸のく
了り也

年 六月十二日

阿榮院の如く
うい海む海海 六海

今度五鴻台佛送法を八人の阿榮院共書

高非非播州地

一拾三年以前に便南地を安弘仕高研に若仕彼地を麻皮
砂糖と積日本、系中とく難風と途高麗と地吹
なのさうもセイジウと中鴻台を破損仕船中し人救
う拾人系中の中或拾八人とも即時に抄果中残三

拾六人志板本、在舟中、助りセイジウ島、揚り中其
鴻台人系中故我と少く一ケラドウと中、取、在
連、系り中、事

一此ケラドウと志板本、其守護、お宛し、扶持、方
と世、い、居、多、く、博、長、僅、し、海、に、お、た、り、不、中、以、故、方、に
乞、食、こ、法、志、を、仕、法、不、甚、修、る、若、類、を、お、調、渡、世、送、送、
中、事

一右三拾六人の内、位、高麗、に、お、病、死、仕、尚、年、迄、拾
六、人、生、銭、居、中、の、内、八、人、志、ケ、ラ、ド、ウ、に、居、在、り、我、に
八、人、志、氏、船、を、求、め、八、月、七、日、に、救、ケ、ラ、ド、ウ、と、途、出、

中蘭十月五日五時在船中ハ五島ヨシノ亦水災麻杯マヒ上小

此方ココ何処ナニ江カ我遣ワカ不中ナ事コト

一拾拾之身拾之同拾身拾致拾迹拾可拾中拾之仕拾得拾先拾由拾致拾共拾擲拾一拾
中拾之其拾同拾頭拾分拾之阿拾蒙拾陀拾寺拾人拾其拾其拾罪拾之拾殺拾
是拾中拾之打拾掛拾者拾其拾之拾之拾め拾以拾之拾海拾中拾之拾想拾之拾法拾由拾
入拾來拾者拾之拾他拾國拾之拾出拾不拾中拾之拾作拾法拾之拾換拾之拾其拾中拾之拾
我拾之拾海拾邊拾他拾所拾之拾出拾之拾中拾之拾僅拾之拾技拾持拾方拾之拾共拾一拾死拾次拾
身拾之拾仕拾在拾中拾之拾身拾存拾之拾八拾人拾同拾朝拾鮮拾之拾胡拾少拾存拾
者拾數拾人拾之拾海拾裡拾之拾事拾

一ケラドケラドウウ之ケ内ラ吾ド五ウ拾ウ里ウ之ケ何ウ何ウ之ケ事ウ之ケ自ウ由ウ

一三拾拾留拾五拾年拾以拾前拾彼拾地拾之拾阿拾蒙拾陀拾船拾破拾損拾仕拾行拾其拾同拾之拾阿拾
蒙拾陀拾寺拾人拾今拾之拾其拾中拾之拾ケ拾ラ拾ド拾ウ拾之拾或拾拾拾里拾程拾
獨拾在拾船拾中拾之拾身拾五拾三拾年拾三拾度拾發拾自拾然拾之拾事拾

一ケラドケラドウウ之ケ内ラ吾ド五ウ拾ウ里ウ之ケ何ウ何ウ之ケ事ウ之ケ自ウ由ウ

一唯唯今今持持船船中中之中若若類類中中之中一一事事請請查查探探八八年年之之志志をを
一我我之之糸糸之之破破損損仕仕之之船船中中之之嘆嘆喘喘吧吧六六人人之之母母也也仕仕出出之之船船

高少佳、別檢三年以第言砂、在の多人も、
宗也、高砂、即言砂、高砂、麻皮砂、種中、日本、
心之、遭大風、吹、以、津、氏、於、南、虫、人、共、外、う、人、成、
者、宗、也、宗、中、の、事、

一、我、共、拾、三、年、の、旨、何、年、仕、日、和、第、中、夜、多、海、友、三、拾、
六、人、内、の、船、の、多、り、道、存、た、係、は、津、間、日、和、長、濟、に、
第、海、船、内、の、此、者、物、語、の、事、り、我、在、者、在、八、人、内、の、
如、道、節、物、在、た、系、者、宗、也、津、今、夜、ク、ラ、ド、ウ、と、迎、
中、の、刻、を、長、濟、と、名、掛、す、系、中、の、得、舟、風、無、憂、心、能、と、
五、向、の、者、仕、り、事、

一、此、八、人、阿、茶、院、共、終、日、和、第、た、る、者、各、は、修、事、
一、我、共、五、嶋、の、若、仕、刻、共、修、番、船、と、名、出、し、法、成、八、人、内、
或、人、日、和、の、船、の、多、り、と、成、挽、船、の、艘、奉、行、由、系、の、船、
艘、合、七、艘、の、私、共、朝、鮮、の、系、海、の、中、の、船、廻、り、と、名、取、廻、
家、元、の、法、在、連、昨、晚、尚、若、仕、事、

年八月十六日

寛文七年

一、去年、四月、比、使、端、吧、也、也、絲、分、海、の、北、川、に、在、り、九、人、の、
頭、使、者、を、以、中、入、り、福、州、の、阿、茶、院、人、自、由、南、東、
仕、度、の、次、天、川、に、在、り、南、虫、人、阿、茶、院、南、東、の、方、に、
マカヲ

澳門

坊中同天川と遊捕給言中遣少處^ほ右川^ほ人
 大将分廣東と頭分と者中並る去年秋の時
 東小天川人敷と並る南蛮人と遊捕中以南
 蛮人共大船二艘と乘り天川と出中以南南蛮人
 乘り中以南船と被川内と地を破損仕今と被と
 五世望加錫と乘り中以南又と被と河清知中
 居中阿茶院人方と去年極月の時と便喘吧
 由る今と成と船中乗
 一去年中上と通とげと人^は阿茶院人軍と
 仕る由今と成と中乗以上

阿茶院の事
 未正月三日
 たよと成と世と成

同年丁未
 阿茶院の事
 一此と書と私と船去年二月と頃阿茶院本國出
 而同年十月頃便喘吧、着仕阿茶院本國と便喘
 吧と近海上別と船と便喘吧
 一便喘吧、六月月程と便喘仕る而二月中旬と便喘
 出船仕る要と高砂と近所と唐令と海盜と船と
 或拾と二艘阿茶院近、寄中と海と近散中

一去年阿葉陀船食物を積喫嗚也不現月人より又
船中の處へ海はけり向し近所を遭大風被損仕阿葉陀
共海にさゆれ船中の船り處へ阿葉陀人悉く討殺せり
船中不殘ゆきり人取中の右に孩子喫嗚也、おま中の
舟云年極月以喫嗚也阿葉陀船拾貳艘海にけり、
遣り中の湊、碇を入り中を海にけり、頭へ使者を阿
葉陀、船中の根子拾貳貫目余、并こり海にけり中金子
手五拾右に使者を持阿葉陀船に中を去り去り
阿葉陀船被損し船中并殺り人しく、王たは、おま各
船中の間是より堪無仕り振り中り中を去り金銀被

者を人質に取阿葉陀船、留置りし世に海にけり
頭へ船中の書物と陸へ阿葉陀人より持船中の處に
阿葉陀人一日陸へ並立三日世に海にけり方とて返事な
阿葉陀人船持ゆり中りし阿葉陀人返り、船中の
海志阿葉陀方へ悪口成紙面より、海にけり以後返報に
仕置者し人質、中り金銀を船中留置り人質に返
中り船中の船り、城下、石火矢と討船中の船り處に
おんて、船中の船り、おまの軍を仕りけり、船中の
中り、舟に所、おま、阿葉陀船拾貳艘共、船中の
おんて、船中の船り、阿葉陀船拾貳艘共、船中の

并大小八百艘程討取まゝさうし四方々焼拂 中
以上

未五月七日

阿蒙陀の事
多に為侍せし

カボトヤ東捕
塞

かむらうちを出入る事由船かうくまんと書

ヒヤウヤ一馬
父耶カ

一かむらうちを高賣事近年利無海陸三月内月
かむらうちを仕舞候也、可成攻是候、唐船を
買調候為管候阿蒙陀人等出船仕候處、
与中唐人高砂、唐船六艘、人教六百、人余、
其川

太泥

口より阿蒙陀系り中少船押中掛ケ、三年以前使
也、在中の見ん、中唐人、其子、其賣、同、借、
處、今相違、中阿蒙陀人、其、
た、阿蒙陀共、悉、其、
陀、在、所、
阿、蒙、陀、上、
子、細、
屋、
仕、
と、

と初より居阿打殺中より承中其後阿葉陀在所と
取由中其時阿葉陀頭多し者出合より中由
か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
者三人同及仕居阿打殺先か初より居阿打殺先か
人世結打漏中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か
留此中阿葉陀人初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
一羽言初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
打漏し下由中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か
在阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
如何格と可仕中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か

初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
不仕中増明不中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か
中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
居所、百連系右左之務也同根打漏し中其後阿打殺先か
下由中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
貴同打漏中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
居阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か
中其後阿打殺先か初より居阿打殺先か初より居阿打殺先か

阿河の中へ来た娘子は不足の骨格を并娘子不殘
打渡りし中へ阿茶院人共打渡りし中へ娘
處川口居中阿茶院船五月十日朝川内入中
舟阿茶院在所市陸へ荷共船積又其後發後
下舟存へ其夜四時分阿茶院三人心替り仕
う阿河方、忍ひ来り中へ船中夜半時分阿茶院老
人案問志仕中へ阿河多留る阿茶院居所、押寄
為し者或人居中へと尋人へと尋人へ追教
共後舟入の初へに寢所仕掛かぬと尋人へ之
面人吊時切殺諸子并荷格打渡り中其阿茶院

人共松又志山、迎中へ三人舟中へ船口迎来中へ内
尋人十三日追打果中へ右阿茶院居所志同十九日尋人
阿河燐掃中へはからくまへ後舟上下武人山、迎去日
孫在中へ船中へ船中へ日本人、近付以落
舟中、下人志此仕合へ尋人夜は是れ非頼由中
海志則日本人阿茶院下人因及志山、乘切らくまへ
巨連宿所、帰り日本居住為被小舟、乗せ下人志深り
く阿河上下武人共阿茶院本船、送り乘せ中へ在る
五月廿一日川内系船同廿九日、川口漸出船仕へ但し
阿河うち川口今川上城布追或百四拾里程涉陸へ由

中々

一阿蒙陀船中ハ所々以津根子百五拾廿目并根式百五拾
貫目程ノ代物也ウ屋河水中ハカボウチ屋ノ居中ハ
阿蒙陀人数或拾六人内五人お果三人モカボウチ屋河
方ハ心留ウ仕業中ハ残拾八人今夜ハ船繋リ業中ハ以上

阿蒙陀カボウチ

毎に為津世多ク

未六月晦日

カボウチ也出五麦船業ハ阿蒙陀人口書

一五月初日カボウチ屋ノ居中カボウチ屋河方中ノ唐人方リ

カボウチ也ハ阿蒙陀カボウチ并共下ノ役人等久メ或人
唐人百五拾人モカボウチ屋河方ニ連糸一日板留業中ハ
阿蒙陀方ハ根子五拾貫目程カボウチ屋河方カボウチ
或人共カボウチ中ハ其後五月中頃クモ覺中ハ夜中ノ唐
人数人系ルカボウチ元毎下役二人殺中ハ根子百七
拾貫目程カボウチ屋ノ取中カボウチカボウチ阿蒙陀人カボウチ
カボウチカボウチ阿蒙陀三人カボウチカボウチ其カ
ハ阿蒙陀共川ノ形入山ノ隈ニ居中カボウチ此カ
カボウチ中ハ阿蒙陀船カボウチカボウチカボウチ
古川ノ水邊カボウチカボウチ武カボウチカボウチカボウチ

程高うけ給へ故石火矣亦中事一發獲成の中
一知りうち也。存中何葉院教部控六人内四人を即時
お果中三人を唐人方一うちり中り即知り
ち也。捕房中一人を海上にお果中一獲拾八人
此船公案也

一近年知りうち也。高葉院高事一利分量沸騰
故高葉事止し可中と存中買切りうち也。船
荷物獲喫咄也。引越りしは處處に知りうち也。何
此候取極唐船數艘川口番付並中り。付喫
吧。集り中事一獲成不中。然る處、五月十八日、

頃此阿葉院船知りうち也。集り故右少船獲中。荷物
共獲移し日本江集り中。以上

未六月晦日
阿葉院の記
多江為傳世と云

阿葉院六番船喫咄也出さず越り覺

一去年四月廿日、阿葉院圍ふ兵船八拾三艘為け連國
江集り中り為け連國方不為兵船八拾艘出さず軍使
船處為け連國船又被同日討捕中り内一船去即
時、お沉し白艘去阿葉院本國。右連集り中り阿葉院

船幾艘同日^に為^し其^の方^に討^つ況^め中^に

一同廿一日^に為^し其^の方^に討^つ捕^中に内^に武^に被^て去^る
討^つ沉^め六^艘去^る阿^の葉^の陀^の國^に連^糸中^に阿^の葉^の陀^の船^に幾^艘同日^に
為^し其^の方^に討^つ況^め中^に

テツカス名カ

一同廿二日^に為^し其^の方^に討^つ三^艘阿^の葉^の陀^の船^に逃^去折^る風^{あり}至^る
先^のの^に以^て其^の中^に三^艘為^し其^の方^に討^つ其^の人^を河^にか^り葉^のか^め火^を
と^り入^り燒^つ沉^め中^に為^し其^の方^に討^つ大^將系^中に船^を被^て討^つ捕^中
り^の處^に船^を擧^げ中^に三^艘阿^の葉^の陀^の方^に討^つ其^の人^を河^にか^り葉^のか^め火^を
將^方に者^を生^か捕^中阿^の葉^の陀^の國^に連^糸其^の船^を就^て合^さる^中
一同廿三日^に為^し其^の方^に討^つ其^の國^に別^に何^れの^兵船^を武^に拾^五艘^出し

中^に阿^の葉^の陀^の方^に討^つ別^に軍^船拾^五艘^出戦^中に為^し其^の方^に討^つ船^七
七^艘阿^の葉^の陀^の方^に討^つ捕^中に内^に武^に被^て燒^つ沉^め五^艘去^る阿^の葉^の陀^の
本^國に連^糸中^に夫^の為^し其^の方^に討^つ船^不殘^り引^中に阿^の葉^の陀^の
船^も本^國に引^取成^中に軍^止め中^に

一同廿四日^に為^し其^の方^に討^つ武^に拾^四艘^阿葉^の陀^の方^に討^つ捕^中に為^し其^の方^に討^つ
人^三子^人程^討果^中に外^に為^し其^の方^に討^つ其^の人^を五^百人^程生^か捕^中
阿^の葉^の陀^の本^國に引^取成^中に連^糸中^に

一同廿五日^に為^し其^の方^に討^つ武^に拾^四艘^阿葉^の陀^の方^に討^つ捕^中に阿^の葉^の陀^の方^に討^つ捕^中
相^果中^に其^の人^を三^百人^程生^か捕^中

一同廿六日^に為^し其^の方^に討^つ武^に拾^四艘^阿葉^の陀^の方^に討^つ捕^中に阿^の葉^の陀^の方^に討^つ捕^中
一^為其^の方^に討^つ其^の人^を今^度軍^仕に^て其^の人^を近^年

中惡交也往々付阿葉陀私節々為付其方取中
付去年阿葉陀方兵私為遣軍仕以上

未七月廿日

阿葉陀私節々為付其方取中

風説書

仏蘭西

一阿葉陀國隣國フランシヤと中國と者共中合近年高
賣中百企弼國方々高私也中々由就其先年
平戸に張渡り中々切取んと阿葉陀人々若くは中
雇ひ大明國方々并日中々高賣私為遣軍仕以上

中々此後使喚也古苗年東京江中裁は造る去る存
ハ得たは風吹波取方海に往故中上ハ私
必定ハ往ル々來年ハ裁と存存ハ其列可
中上ハ以上

阿葉陀私節々為付其方取中

未十月十三日

阿葉陀私節々為付其方取中

寛文八年

苗年張渡り中ハ切取ると書

是班呀 一ハスバニヤと中國ハ守護女子老人男子老人所往ハ
姉娘とフランシヤ中西ハ守護縁也也定中ハ其

刻イ六ニヤ西ノ内フラニ言フ中斷ニ聲引キ相遣
テ守護又相果中ニ其後姉聲右約束ノ領地也急
度相渡中ニ抗言イ六ニヤ西ノ中ニ其後弟聲方相
渡不中ニ付去年春ノ頃カイ六ニヤ西フラニ言
軍ニ始唯今ノ言中仕カレトモ未ニ勝負未知
不中ニ由取中

一フラニ云ク者共高貴中ニ及ビ企日本ノ海防中上
波海ノ里ニ事存望ニ付其高貴中ニ及ビ浪子
来不足ニ付存望ニ付存望ニ付今度去

付ラた中ノ高貴ニ及ビ中ニ由取中若以後フ
ラニ人日本ノ系上可仕後後可有涉海ノ決法中
付ニ付中上

一去年春ノ頃防カシ方中ニ阿蒙陀方ノ軍ニ仕臨
阿蒙陀討勝中ニ宛處此海カ付系西南蛮人數
任宅仕居在ニ悉彼所ニ追拂中由カ付由由ニ再
急ニ城ニ阿蒙陀吾人余就聲中ニ以後南蛮人并
余國ノ者共此由カ付入シ不中阿蒙陀一子高貴
為可仕在ノ人數及ニ城ニ就聲中

一互付事民人ノ阿蒙陀ノ近年軍仕處去年六月比

阿蒙院打勝中ハ故急ハ付ハ建ハ阿蒙院方ハ降ハ集
仕ハ身ハ軍ハ止ハ唯ハ今ハ和ハ議ハ張ハ成ハ中ハ以上

新ハ也ハ也ハ也ハ

女ハ丹ハ多ハ海ハ世ハ及ハ及ハ

申六月朔

古ハ也ハ也ハ也ハ

古ハ也ハ也ハ也ハ

寛文九年

英國風説書

一 去年年中上ハフランス王ハイスパニヤ王ハ二三年軍仕
處ハ去年兵ハ和ハ議ハ仕ハ里ハ回ハ冬ハ阿蒙院本國ハ變ハ喘ハ也ハ

ホルトガル
葡萄酒即上文
所載南蛮

中本軍始ハ子細ハ去ハ年ハ上ハ通ハ海ハ往ハん
一 イスパニヤ王ハホルトガルハ数年軍仕ハ處ハ去年和議
仕ハ由ハ承ハ中ハ子細ハ数年ハ後ハ海ハ往ハ故ハ兵ハ糧ハ連ハ中ハ
友ハ双方ハ中ハ合ハ和ハ議ハ仕ハ也ハ海ハ往ハん

ホウル波羅
尼亞

一 阿蒙院國ハ近所ハ海ハ中ハ王ハ中ハ根ハ中ハ兵ハ軍
寂ハ中ハ仕ハ由ハ承ハ中ハ子細ハ後ハ中ハ何ハ振ハ也ハ由ハ承ハ不ハ中ハ
一 イタリヤ王ハ近所ハカハラハヤハ中ハ嶋ハ以ハ往ハんハ此ハ所ハトハル
コハのハ王ハ分ハ多ハ不ハ可ハ仕ハ唯ハ今ハ中ハ軍ハ仕ハ由ハ承ハ中ハ

イタリヤ意大
里亞カニヤ
其的垂トル工
殺古

一 去年中上ハ海ハ如ハ片ハ島ハ中ハ所ハ阿蒙院手ハ下ハ存ハ
中ハ故ハ阿蒙院方ハ仕ハ益ハ也ハ中ハ付ハ少ハ處ハ一ハ各ハ承ハ引ハ不ハ仕ハ

マ
ガ
サ
ラ
タ

二付又今度倭國に人数多し軍仕事事示難し

一去年年中上通フラス玉に高貴人之カカスル者中

所住所と相定以而も唐方高貴仕若し所住

片とたるとも近家早高貴仕以来志日切之茂

可来々と所住仕

一阿葉院玉今程志何由共軍不仕今之南蛮人

とも矢とめ仕居在り

右之故倭國に風況共形中此外何所住

茂不中友不中上以上

新のじん

物らんそり志仕何所

古のじん

酉六月廿日

た丹忍侍世平記

寛文十戌年

咬喘吧出三番私阿葉の書

波羅尼亞

一何う侍り守護代継之子無し故我と守

護と除き同國中に大才成者上撰之則守護之侍

中より先守護志他國に余中由由中

トヨコし玉に者とヒ二千ヤと中所以者カニテヤと中

取合軍仕處トヨコし者軍と勝中よりヒ三

殺古分攝祭

ソラダラ 蘓門達刺

千ヤシ者と遊拂カニテヤと中取とトロコし多下ニカシ
 中其後トロコニ國とヒニ千ヤと唯今と和談仕
 一マカサレと中取去年阿葉陀軍船と遣_レ中_ニ而阿葉
 陀中務中城と取_ル中_ニ處マカサレ人達石隊集可仕
 由_リ中_ニ取城と名_ニ返_シ中_ニ城主一門共と孫隊集_シ
 ため使_レ喘_レ吧_ニは_ニ戦_ル所_ニ中_ニ和_レ談_シ仕_テ年_下ニ_ニ成_ル中_ニ
 一フ_ラニス_五者_ヲマ_タラ_ウと_中取_又エ_トゴ_ロニ_テイ_ルと
 中_取高_貴船_と遣_シ中_ニ由_承リ_トル_ル
 一フ_ラニス_五出家_四人_平人_之衣_將裝_著仕_高貴_人之_社
 仕_高貴_事之_祈祈_所東_京之_集中_取中_ニ

萬丹

一フ_ラニス_五船_と仕_出シ_サラ_タと_中取_之海_上と_与
 船_を破_損使_喘吧_之集_リ右_ニ船_を理_仕又_ニサ_ラタ_と
 中_取日_集之_由中_取家_中候_理仕_在中_取
 一マ_タカ_スカ_ルと_中取_所フ_ラニ_人城_と據_レ居_中取_之處_ニ之_分
 カ_スカ_ル之_地之_者と_軍と_被攻_中取_之處_ニ双_方数_人相_果中_取
 フ_ラニ_ス人_未マ_タカ_スカ_ル之_在中_取兵_糧不_自由_リ
 之_由迷_或仕_由取_中取_ル
 一エ_ケレ_ス人_私を_被使_喘吧_之近_所ハ_ニタ_ムと_中取_之集_リ
 夫_分為_高貴_高休_之集_中取_之由_承リ_中取_ル
 一阿_葉陀_國歐_羅巴_之内_何西_共和_談仕_軍不_仕以_上

戊
六月廿三日

新門記

海家の山ぬは世のき

古の記

ぬらんそら志之阿

寛文十一年

賞

一 今度私啓判何仕り存矣國筋相替洲法承知
仕り、早速可中上旨海共私喚留吧出私仕り、時分
迄去相替後茂洲、不中候跡私逃入津仕候、在
間風説る茂中來つ、早こ中上
一 今度受留吧分送裁中、或拾巻通之阿葉院書、

相替後茂洲、在月不中上以上

新門記

よ玉の月めんぬ

古の記

海家の山ぬは世のき

美
六月十四日

今夜受留吧、中候風説書

一 去年九月、此所らた玉、地、海賊人所居を、
焼掛、居、益仕、由、形、
一 去年、ラ、玉、不、船、指、武、三、股、仕、出、カ、ア、ボ、テ、ボ、ウ、又、イ

サ
ラ

?

大へラシス与中 國に近所近業中在り 船共彼地分
何西台可業故不存存

一 フラン不國之船三艘高賣物積先年平戸 江張渡り
中ハ切流ル中 阿茶陀人在り 船業中 為五月
晦日 變喘吧近取 三々分中 西江業六月十九日迄
彼地 江張渡り

一 阿茶陀國亦船故各所海南蛮人 今矣為任
江張渡り以上

亥 八月九日

新町記
よしのはのりぬり

寛文十二年

風説書

東寧八甲
甚澤

一 變喘吧 近所 三々分中 所ハ列ケ 甚澤 船より 福
山 業更 分日 刺シ 湯地 茂業 言ハ 由 變喘吧 三々分 風
吹 業中 但 船 敷ハ 後 中 河 柱 共 形 不 中 次 下
今 度 海 上 三 列 中 三 列 南 蛮 船 見 掛 不 中
一 苗 月 十日 阿茶陀 武 未 船 福 州 近 所 三 列 聚
艘 帆 陰 七 寸 見 中 係 何 西 台 業 中 北

吉野記
海家ていぬり世のさし

不存以上

子園 六月廿日

阿葉陀院
よりの風おん好

風説書

一 去年十二月頃所うたより西より西に船が五艘
出船三つは南蛮人中合船数拾五艘に成
はるは所の中所に系人数千人程陸に揚り

セイニ揚蘭仕り申所より所居中の阿葉陀院の方へ世に返り

居る阿葉陀院の方へ世に返り
後より鴻と船共走通中何方にも
去不存存由世に返り居る阿葉陀院の方へ返り
吧中裁に南蛮人中合阿葉陀院の方へ返り
了中後方より往くと存候候に成用仕
一 尚五月中旬頃候に近所ハタムと申
在凡船三艘出船仕り候に申す中
東高下疑東武艘去東高下日知し地は
候候に申す風波兼
一 今度入津仕り候に船は凡船并南蛮船

東高下疑東武艘去東高下日知し地は

海上音見掛不中以上

高麗人

子國六月廿日

引日舟打切ん娘

新加坡

海よりぬはせし

從五嶋送此差我武旅人阿葉陀人口書

一嘆嗚吧五月廿二日人数之指四人出船仕小船に處

先月九日朝十日朝迄大風之速速^速内計以

りん^り近所^近打ん^打心^心と^と中^中取^取吹付られ^吹中^中

夜中^夜より^中雨^雨風^風浪^浪津^津海^海の^の身^身方^方角^角知^知不^不中^中の^の故^故碇^碇入

寧

中^中の^の舟^舟は^は大^大波^波高^高浪^浪打^打揚^揚ふ^ふ船^船破^破損^損仕^仕同^同十^十二^二日^日迄^迄舟^舟

居^居中^中の^の舟^舟は^は可^可仕^仕振^振々^々以^以往^往々^々舟^舟を^を引^引上^上り^り或^或艘^艘

舟^舟日^日和^和柔^柔度^度存^存存^存者^者志^志引^引上^上り^り系^系舟^舟を^を引^引上^上り^り

中^中軍^軍の^の處^處思^思ひ^ひに^に引^引上^上り^り或^或艘^艘阿^阿葉^葉陀^陀武^武旅^旅人^人

舟^舟中^中の^の端^端に^に残^残中^中の^の阿^阿葉^葉陀^陀今^今日^日和^和柔^柔度^度海^海仕^仕り^り後^後

舟^舟の^の元^元存^存其^其上^上食^食物^物茂^茂尚^尚分^分段^段中^中程^程中^中有^有る^る眼^眼前^前

舟^舟を^を引^引上^上り^り後^後舟^舟成^成る^る舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り

舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り

舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り舟^舟中^中の^の舟^舟を^を引^引上^上り^り

何事日布日集後と事存十二日と屋さんといんせ被出
船中々度同日夜に又風強く夜に五時分阿波陀
八人系船中小と川の系に沉中に右六人系
組咬喘吧出船仕に内を人志海上に病死仕に三拾人
東寧に残り中に八人と川の系に果中に我
或拾人漸く先月廿七日し著方五浦に漂着仕に處
從五浦に小船を被系に移し系に中にと川の系に寄り
中に月を為し辭に後に一人と持仕に武具不殘取出し
小船を下り仕りと家武具を其後仕に並人質に船
頭筆者武人陸に仕に連番を穴に仕にお見に松人程夜

付居時に月五朝早く又と川の系に移り去り日扱
七日五浦に他に仕に在に今月四日五嶋出船今物未明
到着仕に五嶋遠に為し中に尚に着に追五浦に滞り下り
其外何も茂田村人と系に仕に不仕に以上

吉野町

子七月五日

小玉の月切ん奴方

新町

海を以て世に侍

天寶元世年

今度我般入津仕阿蒙陀船中誠口書

一 至け建後人阿蒙陀人叙年軍仕余り永く後
 以建後双方中治五年以前軍仕と和膳仕張
 在り然去年六月時分始り人寸國に船を引建後
 西に船分中令阿蒙陀方軍仕かけ中得共在り
 船共を引時遠散り中如新仕合治建後成友
 國に者阿蒙陀人との款に張中純吏阿蒙
 陀船を被海流に所流と中所去去年引仕建後
 人との色中又至け建後船を嘆喘也之近所并
 さい錫蘭に引取人の中所取而する阿蒙陀方之兵捕り中由

中誠併船救何被捕り中とは不中來今度引
 去引人と始り人一人と一身仕阿蒙陀方軍仕掛
 中の子細去如何後代不中誠以定跡船より毒
 細り中誠と毒存先荒増中來通中上引上

阿蒙陀の口書

己六月四日 海より引取建後世引

シヤム暹羅

阿蒙陀三番船を引取船中誠以風況

一 尚年五月中旬頃東京之世人引取國守方
 中遣り去引取高島船日本江中引取引取可

同姓命鄭
成切

仕々若輩の海上を見合はれし討捕一戸者六人せん
也方々中世より由來り及中の以河括し子細る右に候中
世より志承知不仕其外別相替候所不中以上

阿蒙陀切書之

丑
七月五日

海子之ぬは世に子局

今夜再渡中の阿蒙陀新切之口書

波カ
一
去年三月頃阿蒙陀隣國ぬらんに由る阿蒙陀邊
討捕一戸屋仕ぬらんに國に近前魚は出ぬ由り
中國より進出國此五國に根生せ加押と頼中を常

?

世の如く西共の波形列中の船に處をけし方々兵
形に數艘出阿蒙陀國に船手少押寄中少處抄即
阿蒙陀西の高貴船大出拾艘程阿蒙陀國に近前寸
たらしけり為候と中國に乘座帰中より之をけし
國に近前し海上より行合右に數艘に列けし船と
戦中の海舟阿蒙陀船に海志高貴船を以て右
四拾艘の内四五艘をけし方々討捕中の相殘船共志
方々散りては戦中の其別をけし船と云々艘程
阿蒙陀方々討捕不中
一
ぬらんに人右に魚は出ぬ人右中右多難と阿

イトルラニ止公
ルカラドカラ
イヌコフカ
ウイタニキウ
メカ

阿蒙陀由陸公押掛ケル阿蒙陀海去小憐ニ維防
心大堤ニ兼ニ格ニ金ニ格ニ時節堤切ケル海志洪
水出何百騎来ル水溺中ニ故以四國ノ海を
中ニ討捕中ニ事一様成ル

一去年南年喚咄吧ノ近所方々ニ為シ計甚良ニ三艘討
捕中ニ内去リ艘去唐船造リ船ヲ以テ海志洪ニ余入
船を殘大小四艘合テ被阿蒙陀方討捕中ニ次阿蒙

陀私を被海海を所系ケル所ノ近所方々ニ為シ計甚良ニ
捕色中ニ

右阿蒙陀布國ノ軍仕候を私喚咄吧ニ出シ私仕候
と之ノ湊口近所出中ニ處本國方阿蒙陀私ニ被
喚咄吧ニ着シ私仕候ニ使テ裁ル其外ニ英國ノ節并
南蛮人ノ候ニ相替所承知不仕以上

阿蒙陀古印記

丑七月七日

因新印記

よきのにんぬん

風説書

一去年日本高島く世也方分琉球人并唐人方有
 治子王多海中其上高貴之損失仕の月出く世
 也無是非事存の重而日本之使者と海上
 御意の事日本出く兵艦と越阿茶院并唐
 船討捕の事高東寧の沙汰仕の御事船の力
 一去年東寧の内さんといふ事所の破壊仕阿茶院
 三拾人余殺しの中其上浪高子母自程の為物大
 く世也方取の中御事
 一為高貴日本渡海の唐船式被去年出く世也方

取中の由東寧の沙汰仕保何玉分出く唐船と存
 知也の御事

右の御志仕御人の中阿茶院人の御志仕御人の事
 一何事人の事云波一其事仕御人の御志仕御人
 人今度日本高貴の御訴仕上の付彼者の御
 御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人
 又右人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人
 人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人
 御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人
 東寧運為中の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人の御志仕御人

以上

丑七月七日

阿蒙陀吉の元

由子今いぬ世に

同新書

よしのすけいぬ

風説書

一去年三月頃阿蒙陀隣國ゆらふ西の阿蒙陀國を討
捕可中合仕ゆらふ國に近し魚川ゆらふ中玉
又及げまは國此五國に諸子を出し可中、間加捕を
仕是は極よと頼中をい處友國共、波形中、御事

一列けまは人と阿蒙陀人と数年軍仕の處、其、賜有云
は注の分且去友國に強き三歳に成中、故双言中談
五六年以前に和睦仕軍を止り、其、別をけまは人と
阿蒙陀人と、定まは、以て後、列けまは國阿蒙陀に
何事、國の軍仕掛中、其、其、別を相互に格仕合、中
史折云詞を、取替へ、強く、矢、為仕、處、ゆらふ、人、分、頼
中、と、之、列けまは、方、今、度、有、和睦、と、破、中、の、分、佳
今、去、及、げ、ま、は、人、ゆらふ、人、列けまは、人、以、三、
國、と、阿蒙陀人と、志、款、を、在、成、中、の、御、事、
一ゆらふ、人、國、今、有、通、頼、中、の、故、列けまは、國、の、船、ゆら

八以國之船隻中令去年三月比兵船數艘出
 阿葉陀國之船隻中押寄中其船折即阿葉陀西之高
 麥船大小四拾艘往阿葉陀國之在示すたう阿とけの
 船向中四の船は高賣事仕存往海中とのと右五
 五の船は令互相戦中其先阿葉陀船志高賣船と
 四の船は政右四拾艘の内四五艘討捕中其相残船共
 方之數は往成中其刻三ヶ月西に船はらんす
 國之船隻艘も阿葉陀方志捕り不中其佛事

一 船らん人ら船は出川ぬ人ら友國一身仕大指る阿
 葉陀西の陸地を押寄中其阿葉陀方志は陸地を

軍仕すけり船は存中其阿葉陀方志は防中候
 往成不中あらん五七の國の内けい号らん中其所
 引之船は内中あらいたらき中其は云ふ船らん
 以人船は出川ぬ人ら討捕中其佛事

一 阿葉陀七の國の内三の國討捕中其相殘四の國に候ぬ
 らんす人船は出川ぬ人多指る仕掛中其得兵四の國
 之候志軍者用心節大堤と梅石並に候し時節も
 堤正切崩中其得志國中洪水出何万騎寄也其茂
 悉く水溺也中其故此四の國に候志中其討捕中其
 志志善也其佛事

一去年當年之間、甚凡船三艘、喫吧、近所、与
阿蒙院方、討捕中、内、与艘、去唐船、造り、之船、之計
割凡、人、并其海人、与阿蒙院人、与人、与人、合居、中、以
捕、之計、甚凡、人、因前、喫吧、与、与、以其海人、中
阿蒙院人、去近年、之計、甚凡、人、与、与、在、中、其
又、之計、甚凡、人、今度、日本、高賣、之所、所証、と、一、渡海
仕、之計、甚凡、人、日布、之業、因存、中、其、与、先
啗、也、之近、所、もん、た、と、中、其、与、也、中、其、東、部、に
来り、又、もん、た、と、帰、中、其、与、右、之唐船、造り、之船、之計、
け、甚凡、人、与、与、与、与、捕、喫、也、之、与、中、其、御、事

一右、之計、甚凡、東、部、運、中、之、承、中、其、中、其、也、之
東部、之、内、也、と、いん、与、中、其、と、也、与、去、年、破、換、仕、中、其、船、之
阿蒙院人、三、拾、人、余、殺、中、割、浪、高、子、貫、目、程、右、破、換、船、
之、海、也、出、く、甚ん、や、方、之、中、其、又、去、年、日、中、高、賣、渡、
海、之、唐、船、武、艘、出、く、甚ん、や、方、之、中、其、東、部、也、中、其、
以、保、何、固、出、之、唐、船、と、付、不、存、也、由、也、之、と、海、中、其、也、
以、其、海、人、と、持、仕、覚、事、也、右、之、候、書、付、御、座、に
御事

一右三艘、取り、中、其、之、計、甚凡、船、内、其、艘、也、昔、年、高、賣、
物、と、積、阿、蒙、院、人、日、中、其、也、中、其、但、之、計、甚凡、

人志を人殺すを余りよ中の御事

一 去年始らん小國の船を幾大小四艘使咄也近所
高阿茶院方討捕中の御事

一 去年田舎の所系白中下高阿茶院船を幾多計甚
方江さらせ中の御事

一 今度阿茶院於本國軍仕の根子去新町見咄
吧と出船仕るる日本に乘上仕るとく淡口迄居出居
中ハ處本國分阿茶院船三艘使咄也若船仕此後
中我承リ中の併始らんは玉々強出川に國急計甚
因此有國の根子といご一加勢七頼阿茶院國軍仕

掛中の事め申指し意故る以能共事存の御事

阿茶院高町見

丑八月

同新町見

よるの以かん始り

延宝二寅年

南年所渡中の阿茶院新町見町見に書

一 去年中上の通に計甚凡國始らん凡國急計甚出川
別國以三々中今阿茶院國軍仕掛阿茶院七々國
之内討捕中の以三々國之内六郡程去年四月

阿蒙陀方之取返也

一 去年七月頃、阿蒙陀國の船軍、阿蒙陀方へ
私百艘余、阿蒙陀國に船軍、阿蒙陀方へ
兵船七、八艘程出、三度戦中、阿蒙陀方へ
兵船三、四艘程、阿蒙陀方へ追散、阿蒙陀方へ
兵船三、四艘程、阿蒙陀方へ追散、阿蒙陀方へ

一 英國船、南蛮人之故、舟凡、阿蒙陀方へ
不中哉

右、阿蒙陀方へ去年七月頃、阿蒙陀方へ出船、阿蒙陀方へ
四月頃、阿蒙陀方へ船、阿蒙陀方へ此便、阿蒙陀方へ

一 去年南蛮、入津、阿蒙陀方へ引、阿蒙陀方へ
天川、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ以上

六月廿八日
阿蒙陀古島
よ己の寸かん娘

阿蒙陀古島
よ己の寸かん娘

延宝三卯年

一 四年以前、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ
此討捕、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ、阿蒙陀方へ

内原之志紀方中折し左下志嶋らん人等持着
居中足山兵糧攻仕り百以百取進之市与存

一去年二月頃阿葉陀隣國原山川嶋与中下阿葉陀
方大勢之軍仕掛中處此原山川嶋之内百葉
阿葉陀方討捕中子細去四年以前嶋らん人
被一身阿葉陀方軍仕掛中二分此法注

一其後阿葉陀國之惣大将嶋らん人國軍仕掛聖海也
取居中處嶋らん人数万人出全戦中他處
嶋らん人六千人程討捕中以内嶋らん人大将
分之者殺多討死仕阿葉陀人幾許子人程討中

お磯嶋らん人悉く敗軍仕阿葉陀人依去彼所野
陣と取居中由中來

一阿葉陀國之兵船と出嶋らん人國之船諸攻掛中
かりつら与中鴻又所居めんて所与中鴻此武嶋と
討捕中

一舟楫國之近所出以と所海もんで以系と内とんとめ与
中下嶋らん人住仕居と阿葉陀方軍仕掛嶋
らん人を追拂唯今去阿葉陀人住居

一舟楫國方之國之高貴之系り中嶋らん人國之船被
方と見合次第阿葉陀方討捕中故残り嶋らん人

人々其本國に在る中

一 阿蒙陀國の内母を急ぐと海らんとす所故年をけむる人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一

一 阿蒙陀國の阿蒙陀國と和陸に在る人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一

一 阿蒙陀國の阿蒙陀國と和陸に在る人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一

一 阿蒙陀國の阿蒙陀國と和陸に在る人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一

一 阿蒙陀國の阿蒙陀國と和陸に在る人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一

分ちて日刺し高きとのみ為可中嘆嗚吧近所を
んたむとす下直尚四月右しありこのく余り船を
艘と余中し夫分福州に余彼地より日刺し氣急
く由り中

一 阿蒙陀國の阿蒙陀國と和陸に在る人々其本國に在る中今度阿蒙陀國に在る一
為可仕兵船と遣し一處にありあはふ兵船と
出之戦りて處に南蛮人共大勝討殺さるる残兵は
逃散し玉國に迎ふ中右に候こと玉に居りて南
蛮人共頭兼り兵船を艘仕立自身ありあはふ國に
とて海上を遭大風こと玉に居りて中里兼及中

一南蠻國阿萊陀國唯今去矣尚仕居中也

一當春日日本使啗吧^江余中以唐船^江乘乘以唐人^江內武人

啗啗吧^江与世孫^江傳^江中^江以高南年^江阿萊陀心次^江才^江福

州^江阿萊陀^江船^江之^江我^江高^江實^江仕^江替^江中^江來^江統^江吏^江福^江州

其^江後^江為^江中^江唐^江船^江之^江艘^江啗^江啗^江吧^江以^江我^江中^江中^江以

得^江共^江其^江唐^江船^江之^江少^江船^江仕^江以^江返^江去^江余^江中^江以^江身^江必^江元

存^江先^江尚^江年^江去^江出^江人^江且^江每^江也^江之^江高^江實^江船^江之^江遣^江不^江中^江分

与^江佛^江姓^江也

右^江之^江外^江島^江國^江南^江蠻^江人^江之^江後^江牙^江相^江替^江沙^江汰^江兼^江知^江不^江仕

以上

阿萊陀新船

卯七月五日

同古島

海島之船

延寶四辰年

尚年^江在^江彼^江中^江以^江新^江加^江到^江多^江兒^江以^江上^江書

一^江海^江之^江起^江與^江中^江而^江阿^江萊^江陀^江西^江之^江内^江有^江法^江庭^江也^江數^江年^江奴

以^江兒^江才^江人^江之^江返^江取^江彼^江地^江也^江奴^江才^江人^江住^江宅^江仕^江在^江在^江中^江得^江共

年^江之^江奴^江才^江人^江之^江發^江屋^江中^江以^江後^江志^江阿^江萊^江陀^江國^江在

返^江之^江中^江由^江本^江國^江分^江中^江來^江也

獨逸

一 阿蘭陀方へゆらんは國に軍を仕掛節に戦つて處に交り
子あらんの方へゆらんす人三万人程討捕ゆらんは國
に内ふド阿蘭陀の方へ今に陣を取居る中へ

一 阿蘭陀人へゆらんす人の方へ交軍を仕掛節にゆらんは
白中へ守護兼阿蘭陀方へ加勢を遣ふ中へ處に加勢
に者共阿蘭陀陣所に加り阿蘭陀人と一才仕ゆらん
到人と軍を仕掛節に存る中へゆらんす人陣取居る
に故に加勢にゆらんはどの勢通り中へ事な成る
故にゆらんどの加勢に者阿蘭陀人と分りゆらん
ゆらんす人と軍を仕掛節にゆらんす人へ大將命に者大

勢兼雜兵三万人程ゆらんはに討捕ゆらんは人
を追拂ひゆらんは人ゆらんはゆらんはゆらんは
子細を去々年ゆらんす國に阿蘭陀國に軍を仕掛節に
刻ゆらんは人彼ゆらんはゆらんは國内を通り阿蘭陀
國に兼り其刻ゆらんす人ゆらんはゆらんはゆらんは
仕刺ゆらんはゆらんは國に火をうけぬは妨を仕
に身共ゆらんはゆらんは守護の原兼り意故に念
に在る故に今度阿蘭陀方へ加勢を遣ふゆらんは人と
軍を仕掛節にゆらんは國に候也中へ故に

一 阿蘭陀國に阿蘭陀國に唯今に和睦仕中へ其子

細去去年忽行甚出人與阿蒙陀與船軍仕處
阿蒙陀方忽行甚兵船數艘雜兵大勢討捕中
故自分忽行甚兵方軍也止中

一 東亭居戶中錦倉多下唐人志也其
任宅仕阿蒙陀也始言企仕由志也其地
之者阿蒙陀方密通也其友阿蒙陀方發覺該
仕在中然其處志也其地其唐人方也押留中
故阿蒙陀方始也奇一不中此位去年粟月頃志
也其由使咄吧中其也

一 右錦倉軍為可仕雜兵數人百連廣東分其也

由使咄吧言風字仕

一 忽行甚人船其艘為高賣去年東亭に其り其處

高賣事不仕合言換仕居坂中由使咄吧言風字仕

一 去年中上下で以ぬ訪ふ加中其仕也一高賣船日本

に其上可仕風字兼中其統處彼船頭先年日本

に其中其其のく其阿蒙陀人使咄吧に近所

其人大む中其其當年其果中其此其其以後

福州に其中其由使咄吧言風字仕日本渡海仕

一 忽行甚人其船其艘其四月中旬頃使咄吧に近所

らんたむと中斷之集りて或艘之内多艘早速乗柄
西之近所出立と分中西一集りて今多艘海より
波こぎと、集りて重喫啗也音風字仕

コウダ、
一 ようだち中斷分出中人同前と加法と中南重西二
年々集敷人任宅仕る南重人の子下、尾成居
中ハ船ん處列りてうり西漸々困窮仕る分右に引
うだ困窮者我同前と加法と守復り引り高
愛船と大小拾艘程乗柄困窮也困窮仕る分
國呂采其外方々集りて由喫啗也音風字仕
一 ぬきん引りて中斷南重人任宅仕る在り船ん處

サラタ、

門^モ洲^{サニ}皮^ニ刻^テ

以所近く根山を見出りて此根山と彫也南重
人任宅とて王と中斷分彼根山と而ハ船三艘校合也
是根山と取立中用意仕る由喫啗也音風字仕る以上

辰六月十三日

新島島人

小玉の尻かんぬい

新島島人

乙事記てま何れ

阿茶院文字より加印島人清浄証書と和解

一子と年々五年以来出入りて高貴車五分所と高

人頭共目論之。以貨物出。既以作舟。明年亦元。不。此
作後。有畏。費。拂。代。重。法。元。中。以。船。處。年。之。振。以。往。不
多。名。出。人。之。也。後。因。新。仕。不。矣。國。方。之。也。我。貨。物。下。並
扣。調。中。依。船。成。以。往。不。下。並。之。調。中。之。仕。也。舟。第。貨。物
亦。隨。之。惡。補。在。成。中。以。諸。職。人。我。下。並。賣。中。以。當。名。渡。世
難。送。以。往。不。之。舟。并。柄。法。之。大。之。寸。之。寸。也。也。此。所。之。之
諸。職。人。而。作。也。止。中。以。者。數。多。佛。經。也。

一 方之國之。亦。以。入。根。仕。諸。貨。物。既。是。中。以。之。法。元。日
布。持。業。仕。也。後。以。往。不。貨。物。等。子。端。之。入。根。仕。在。並
得。共。溯。七。八。百。端。後。以。方。若。相。假。之。而。作。也。加。之。數。之。之。往。

成。入。根。等。我。損。失。仕。也。殊。貨。物。我。惡。為。在。成。中。以。右
之。根。子。以。往。不。之。舟。貨。物。為。年。之。少。之。在。成。私。數。幾
盈。之。之。舟。物。之。其。若。若。也。何。極。之。後。之。舟。極。之。在。成。也
或。自。佛。尋。我。之。也。為。成。法。元。之。也。舟。存。上。前。以。中。上。並。也
一 亦。人。之。舟。也。後。數。年。在。家。佛。法。高。費。事。仕。代。重。若。若
也。也。相。遠。之。也。在。極。之。也。為。作。舟。備。雖。有。舟。存。上。之。物。若。若。近
年。之。也。唐。之。國。共。物。每。高。費。之。在。成。其。上。出。人。之。舟。也
儀。遠。國。之。舟。大。船。之。舟。海。仕。也。後。之。法。元。舟。十。方。之
之。舟。大。分。之。雜。用。入。目。以。往。不。之。舟。恐。多。中。上。事。之。舟。存。也
得。共。此。舟。之。舟。舟。舟。悲。之。程。從。佛。上。可。控。極。高。費。

事此為 仰付此為下之孫 孫維有之 事為上以上

辰十月廿一日

阿葉陀切書

下書紀之 阿葉

延寶五年

當年孫後中 新切切 口上書

- 一 どのちらん どの中 國と 阿葉陀 國と 右 姉らん 國と 軍 侍 佐々 慶 姉らん 氏 方々 此 友 國 日 和 睦 可 仕 由 中 以 爲 是 どのちらん どの 阿葉陀 友 西 之 念 忘 不 仕 今 之 軍 侍
- 一 兵 柄 國 阿葉陀 人 救 年 任 宅 仕 高 賣 仕 来 り 中 以 納 吏 高 賣 物 倒 年 下 也 買 下 中 子 立 仕 以 爲 是 年 柄 西 者 共

勝立仕お入之孫 威中 故 汝 九 西 台 中 而 兵 柄 國 守 護 病 中 以 月 汝 下 多 矣 阿葉陀 人 任 宅 仕 居 中 此 儀 也 兼 付 守 護 其 以 中 以 爲 是 守 護 分 兵 柄 國 頭 分 之 者 右 之 儀 阿葉陀 中 分 之 者 中 以 間 所 之 者 之 中 付 極 之 中 汝 以 得 志 吾 越 中 身 之 要 之 兵 柄 合 中 之 志 阿葉陀 人 中 分 斗 也 汝 應 我 之 中 儀 偽 り 与 汝 存 之 事 汝 之 中 以 中 孫 勝 立 仕 お 入 之 孫 威 阿葉陀 人 也 兵 柄 國 之 追 切 事 中 以 由 之 法 律 也

- 一 加 何 野 之 國 之 近 所 之 地 中 以 爲 是 律 之 此 所 之 人 多 法 律 之 南 重 人 後 任 而 仕 居 中 以 納 之 處 之 鴻 人 之 南

重人台軍仕り申承及申下

一 廣東江去年霜月頃嘆咄吧公為高賣阿業陀船或艘
船中江海共軍家中より高賣不仕居海申下内考艘去
福州江案申下

一 去年十月頃嘆咄吧公為高賣阿業陀船三艘福州江
遣申下高賣物分吏之江後仕福州江守護高賣後
申下船共其後軍家中故代仕相深不申下其
極子為守申下三艘之内考艘去嘆咄吧江十月頃居
飯申下其以後年明為代物代申下船子少並網
船与少之相後申下二月頃嘆咄吧江又考艘居

歸り申下船大分船子残仕申下今考艘福州江残
居申下守福州江守護清南王申下志軍茂洛申下
より申下信高賣物仕申下錦倉方福州江川只軍
船大分仕掛居より嘆咄吧江船江遣阿業陀軍船拾
艘程加勢被其申下清南王方分阿業陀申下二月頃
分阿業陀人福州江残其船志嘆咄吧江苗四月初頃
飯申下志清南王不考艘嘆咄吧江世孫ら亦方江其通
書状遣申下廣東江或艘案申下船之内考艘苗三
月頃福州江案申下船志今福州江居申下嘆咄吧
案申下是事申下申下考艘之船志居申下苗

中ハ倭船也ハ福州加勢船ハ海名如何極也不中
来ハ

一 下ハ奴清海加國ハ船名三艘為高貴福州江 糸居中ハ
處今ハ西並延之不中ハ

一 東京國ハ船ハ人ハ伴天連南垂人ハ伴天連在
中ハ名西中ハ者進メタリ志人宗旨ハ仕ル由東
京ハ守渡取付タリ志人宗旨ハ成ル者共武三人
捕ハ穿撃仕ル我タリ志人ハ正成中ハ由中ハ
三月其者共曲事ハ中月其跡修ク穿撃仕ル東京
居中ハ阿茶院人房ハ倭船也中哉ハ伴天連志如何

神仕共不中來ハ以上

巳
七月六日

古書見

正色記下古海名

新田見

阿茶院人房見

口上書

一 當六月九日阿茶院船三艘福州一遣之中華西其子
細名福州今ハ艘殘屋中ハ船人為運之由今被
印書船分中哉ハ

一 延寶三卯年東系出陣一陣船分東系出陣錦倉方
 之船頭分南所方中合東京高賣系中番武殿共
 東京高賣任者去年六月東京と頼船出陣仕天
 川前と御艘つまふ系中番東系船先系船中
 天川口と南所中番一陣船分系中番見掛兵船合
 系中番中番海系東系兵船救艘出陣一陣船分西廻
 石火矢と掛帆柱杯つまふ一人をも冬人お救
 中番中番南所船共北風と在成中番故幸い存東京
 逃げのが東系中番北風東系守護一陣南所中番
 由去年十月比東京と今彼と新加島中番承中番

中上以上

巳七月七日

古四島

下巻記之と何れ

新加島

何れと何れと何れと

